

# 震災アーカイブの 「これまでの10年」と「これからの10年」

災害科学国際研究所  
災害アーカイブ研究分野  
柴山 明寛

[shibayama@irides.tohoku.ac.jp](mailto:shibayama@irides.tohoku.ac.jp)

# 東日本大震災の犠牲者と行方不明者

---

犠牲者：19,729名

(震災関連死：3,767名)

行方不明者：2,559名

内閣府 緊急災害対策本部とりまとめ報「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について」(令和2年3月10日8:00現在) <http://www.bousai.go.jp/2011daishinsai/index.html>  
復興庁 東日本大震災における震災関連死の死者数(令和2年9月30日現在)[令和2年12月25日公表] <https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat2/sub-cat2-6/20140526131634.html>

# 現在でも避難している方の数

---

42,415名

自県外への避難者数は、  
福島県から29,307名、宮城県から3,768名、岩手県から930名

復興庁 避難者の数 令和2年12月25日:

[https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat2/sub-cat2-1/20201225\\_kouhou1.pdf](https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat2/sub-cat2-1/20201225_kouhou1.pdf)

復興はまだまだ道半ば

---

阪神・淡路大震災 復興期間25年

東日本大震災 復興は継続中

# 東日本大震災 デジタルアーカイブ 「これまでの10年」

# 東日本大震災アーカイブシンポジウムの10年

年度	東日本大震災アーカイブシンポジウム副タイトル	共催
平成23年度	東日本大震災アーカイブの最前線と国境・世代を超えた挑戦	総務省
平成24年度	震災アーカイブの国際連携を考える	ハーバード
平成24年度	過去と現在の記憶・記録を未来へ伝えるために	総務省
平成25年度	未来をつくる地域の記憶	国立国会図書館
平成26年度	4年目の震災アーカイブの現状と今後の未来(世界)へ繋ぐために	国立国会図書館
平成27年度	地域の記録としての震災アーカイブ	国立国会図書館
平成28年度	震災から6年経過した震災アーカイブの進化と深化	国立国会図書館
平成29年度	被災県が実施する震災アーカイブの意義	国立国会図書館
平成30年度	震災の記録を伝える～自然災害と防災教育	国立国会図書館
令和元年度	震災伝承施設と震災アーカイブ	国立国会図書館

# 震災アーカイブの「10年」でわかったこと

---

## 【人員の課題】

- × 震災アーカイブ専門のアーキビストがいないこと
- × 人事異動などで構築時の意義や継続の重要性などが徐々に希薄化していくこと

## 【収集・整理・保存の課題】

- ◎ 多くの方が震災アーカイブの重要性を理解していただき、多くの震災記録の収集が可能になったこと
- × 構築後の記録収集が継続的にできていないこと
- × 記録の収集するより、整理・保存・公開の方が数倍の時間と費用がかかること
- △ 収集した記録の中で非公開の記録が大量にあること  
(公開データと同じぐらい非公開データが存在)

# 震災アーカイブの「10年」でわかったこと

---

## 【未収集データの存在】

- × 自治体の復興記録などの公文章などの収集が未完

## 【メタデータの課題】

- × 国立国会図書館のメタデータスキーマなどもあるものの、統一したメタデータスキーマができなかったこと
- × メタデータの品質の確保する基準を作ることができなかったこと

## 【ガイドライン】

- △ 総務省ガイドラインが存在したことで、ある程度の統一したアーカイブが構築できたが、10年現在では変わったことも多く、全面的な見直しが必要である



# 震災アーカイブの「10年」でわかったこと

---

## 【ハードウェアの課題】

- × サーバの更新の費用が捻出できないこと
- △ 長期保存メディア及びドライブの下位互換に課題が残されていること(テープメディアなど)

## 【ソフトウェアの課題】

- ◎ 主要なファイルフォーマットが10年間ほとんど変わらなかったこと(マイグレーションの課題が発生しなかった)
- × アーカイブシステム構築後から、より良くするためのシステム改変が行われておらず、現状維持が多いこと
- △ サーバOS(RHEL5,6,7)などのメジャーバージョンアップにとっても注意が必要だったこと

# 震災アーカイブの「10年」でわかったこと

---

## 【ランニングコスト等の課題】

- × ハード、ソフトの年間の数百万から十数千万円の維持費（ハード耐久が5年限度、定期的なシステムセキュリティアップデート）
- × 予算確保のための疲弊化（KPIの達成など）
- × システムの維持に費用が計上されやすいが、人件費がつかないことが多い

## 【利活用の課題】

△ 伝承館や記録誌、語り部などである程度の利活用はされているものの、教育現場などでの利活用が進んでいないこと。

# 震災アーカイブの「10年」でわかったこと

---

## 【その他】

× 復興期間の終了や震災10年などでひと区切りと考え、アーカイブを閉鎖やデータ移管が起きていること

◎ 東日本大震災のアーカイブが契機になり、数多くの自然災害アーカイブが構築されはじめた。また、既存のアーカイブ団体の励みにもなったこと

# 東日本大震災 デジタルアーカイブ 「これからの10年」

# 東日本大震災を知らない世代が数多くいること

---

0～10歳：973.6万人

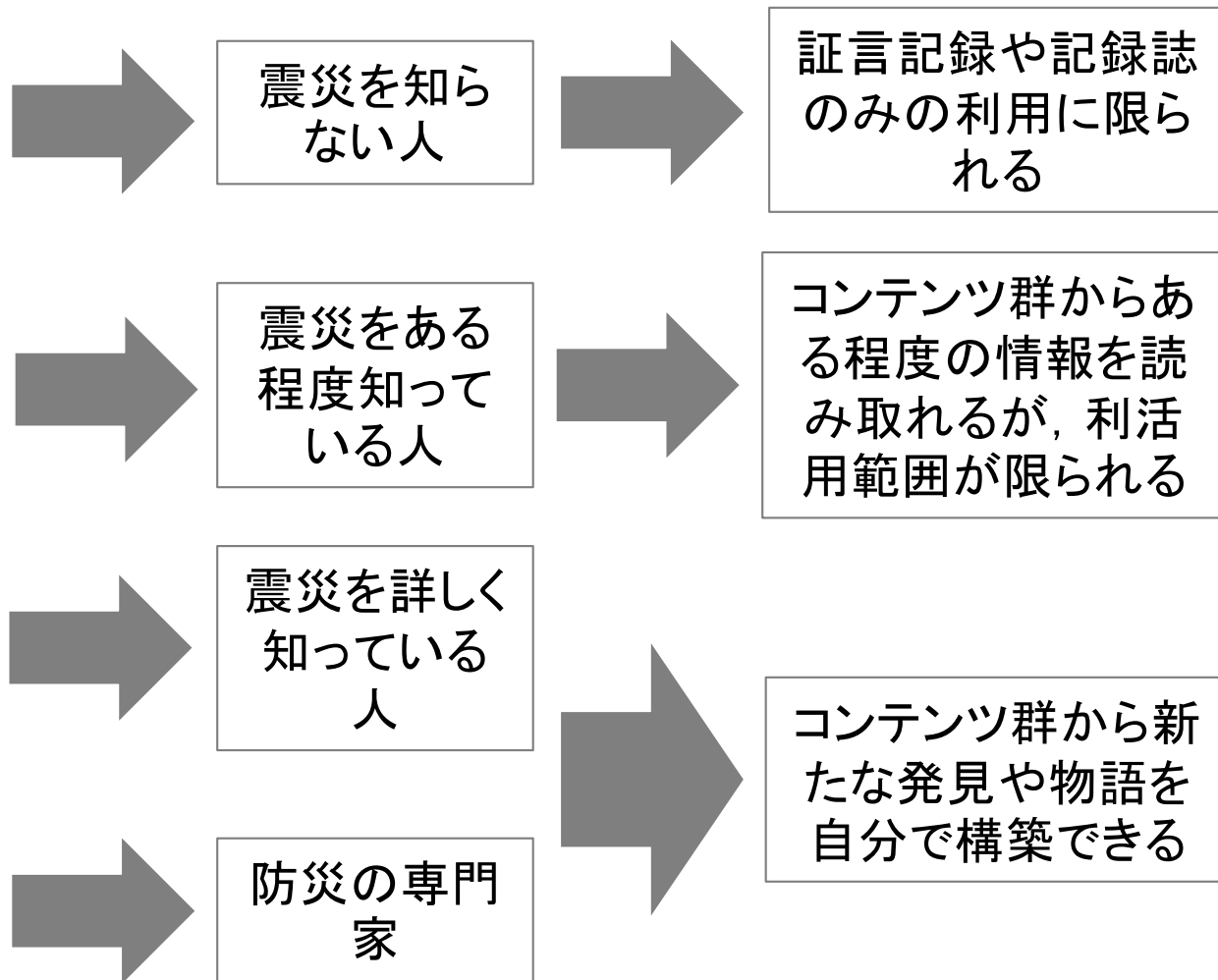
0～15歳：1507.7万人

令和2年(2020年)7月確定値

総務省統計局：人口推計(令和2年(2020年)7月確定値, 令和2年(2020年)12月概算値)  
(2020年12月21日公表) <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.html>

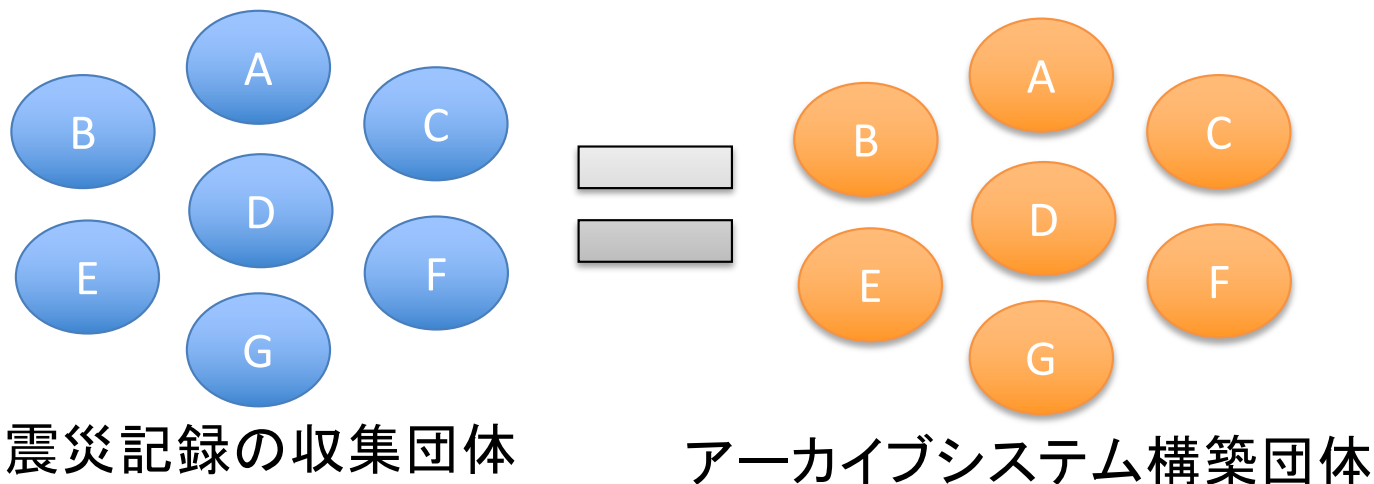
# 既存の震災アーカイブで欠けている部分

## 震災アーカイブのコンテンツ群



# 今後の目指すべきアーカイブのあり方

## 【東日本大震災の震災アーカイブの事例】



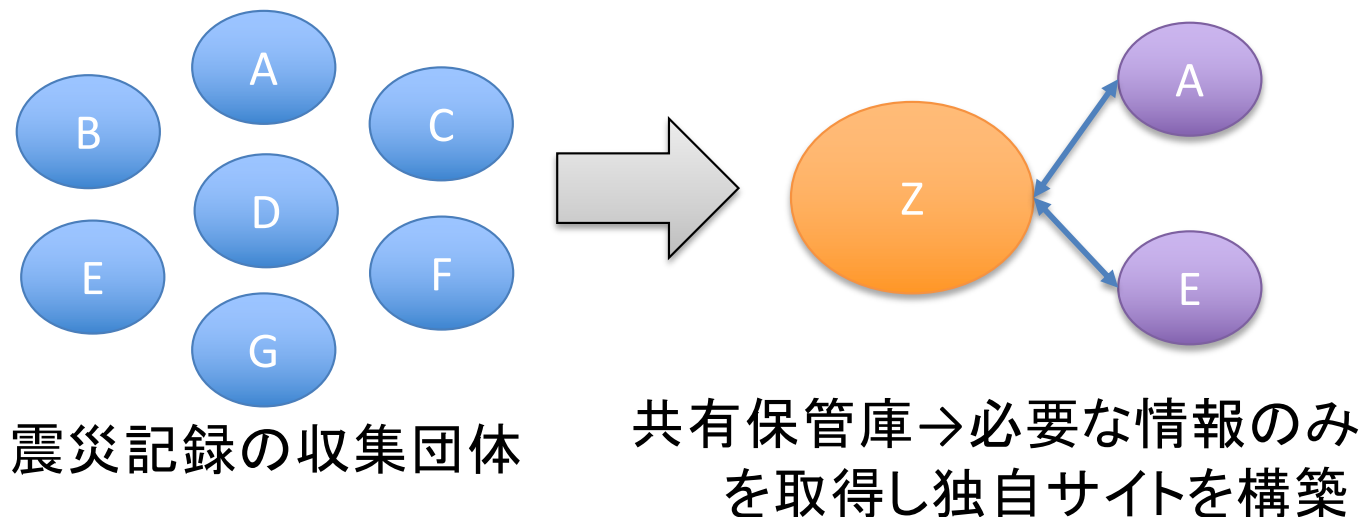
### ○メリット

- ・団体の意図したシステムが構築できる

### ×デメリット

- ・コストが団体毎にかかる

## 【今後の目指すべき姿】



### ○メリット

- ・団体の意図したシステムが構築できる

- ・コストが多少なりとも下がる

### ×デメリット

- ・共有保管庫の運営が大変

# 最後に

---

東日本大震災及び様々な自然災害のデジタルアーカイブを発展させるために、東北大学災害科学国際研究所及び国立国会図書館が全力でサポートを行う



困った時は、いつでもご相談をください！



ご静聴ありがとうございました。  
[shibayama@irides.tohoku.ac.jp](mailto:shibayama@irides.tohoku.ac.jp)